

令和7年度第2回四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会
会議録（概要）

日 時：令和7年8月9日（土曜日）

午前10時00分から午前11時40分まで

場 所：四街道市文化センター 206号室

出席者：小川会長 小島副会長 細谷委員 栗谷川委員 岩間委員 泉委員

欠席者：陳委員 グルフセイン委員

事務局出席者：伊藤地域共創部長 新田地域共創部副参事 岩井みんなで課長
森田みんなで課長補佐 櫻井主任主事

傍聴人：4人

——会議次第——

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 会議の公開・非公開
4. 議題
(1) 四街道市多文化共生推進プラン（素案）について
5. その他
6. 閉 会

——会議の内容——

1. 開会

【事務局】

本日は、公私ともにご多用の中、令和7年度 第2回四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

それではこれより令和7年度第2回四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会を開会いたします。

本日は6名のご出席をいただいております。四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会設置要綱に規定する過半数に達しておりますので、本日の会議は成立いたします。

これより会議次第に沿って順次進めさせていただきます。

それでは小川会長よりごあいさついただきまして、四街道市多文化共生推進プラン策定懇談会会議の進行をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

【小川会長】

～あいさつ～

3. 会議の公開・非公開について

【小川会長】

議事に先立ちまして、会議録における発言者名については、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、原則として明記することとなっておりますので、本懇談会においても明記する取扱いとしたいと思いますが、委員の皆様のご意見をお伺いします。

【委員】

～異議なし～

【小川会長】

異議なしと認めます。本懇談会における発言者名を明記する取扱いとします。会議録は事務局が作成することとし、出席委員を代表して私が内容確認をさせていただきますと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

【委員】

～異議なし～

【小川会長】

それでは、会議録は私が確認させていただきます。

続いて、会議の公開・非公開につきましては、「四街道市審議会の会議の公開に関する指針」により公開とさせていただきます。また、会議資料につきましては、「四街道市審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、傍聴人に供するものとしますが、このうち、会議次第につきましては配布するものといたします。その他の資料につきましては本懇談会の判断によるものとされております。私としましては、資料についても配布することとしたいと存じますが、委員の皆様のご意見をお伺いします。

【委員】

～異議なし～

【小川会長】

それでは、本会議は「公開」とし、傍聴人に資料を配布することとします。事務局は傍聴人の方がいらっしゃいましたら入室いただいでください。

【事務局】

はい、4人いらっしゃいますので、ただ今から入室していただきます。

4. 議題

【小川会長】

それでは本日の議題に入ります。

議題1. 四街道市多文化共生推進プラン（素案）について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

～議題1について説明～

【小川会長】

ただいま事務局より説明がありました。四街道市の人口が増えている要因が外国人の増加というのがよくわかりました。

ご質問、ご意見等ありましたら、お願いします。

【栗谷川委員】

市全体の外国籍市民は、直近10年で2.7倍の増加とのことでしたが、教育現場はそういう感覚ではないです。平成25年に四街道北中学校で勤務していた際は、恐らくアフガニスタン人の学生が1人のみでした。現在は外国人生徒が20名在学しており、教育現場としては爆発的に増えていると実感しています。

日本語指導については、千葉県からの加配による日本語指導教員、語学指導員、四街道市国際交流協会のボランティアにご協力いただいています。

しかし、課題として「話す・聞く」だけでなく「読み書き」ができないと進学が厳しいです。

学校としては、20人に対してきめ細かい支援をすることは難しいのが現状です。

【小川会長】

途中で転入してくる方が多いため、特に日本語支援が必要になっていると思

います。

【事務局】

市教育委員会が語学指導員を派遣していますが、指導時間が足りないことが課題と感じています。

【小川会長】

指導時間が大事だと思います。このプランを機に予算要求をしていただければと思います。

子どもたちの人生は待ったなしです。また、リソースに限りがある中では地域の方にご協力いただくのはいかがでしょうか。

【岩間委員】

自治会としては、近隣の外国人とコミュニケーションが取れず、歩み寄ることが難しく感じています。

また、外国人にイベントの参加を呼び掛けたいが、チラシは日本語でしか作成できないため、課題となっています。

長期的に見ると、人と人との理解し、信頼関係が構築できるかが大切だと思います。

【事務局】

外国人市民は、定住志向が強いので、進学・就労まで支援することが必要と感じています。そのため、高校進学の支援をしている多文化フリースクールちばの活動を支援することが大切だと考えています。

また、外国人市民との文化の違いを情報発信することで、多文化共生の理解促進をしたいと考えています。

【小川会長】

進路希望調査はどのような形で実施されていますか。

【栗谷川委員】

日本人生徒と同じです。3者面談は、生徒が日本語を話せることが多いため、通訳してもらい保護者と会話しています。

中学校卒業後、親が経営しているヤード等に就職したり、日本語が理解できず高校への進学が難しい生徒がいたりするのが現状です。

【小川会長】

在留資格の関係もあるため、ぜひ高校への進学はしてほしいと思っています。日本人生徒と同じ支援だと高校進学率を高めることは、難しいと思います。

【小島副会長】

外国籍市民の16歳未満人口のうちアフガニスタン人が約60%を占めています。また、四街道市国際交流協会に対して市教育委員会から児童・生徒の支援者リストが送られてきますが、その中の75～80%がアフガニスタン人です。このような現状から千葉県からの日本語指導教員の加配を増やしてほしいと感じています。

アフガニスタン人は、男の子は父親の事業を継ぐ、女の子は18歳くらいからお見合いをして結婚するという考えが強いですが、中には大学に進学して会社から内定をもらった方もいます。

現在ヤードは、経済の影響を受け低調気味のため、他の仕事やアルバイトを行っている方もいます。

外国人市民の第2世代には、日本の会社に就職できるくらいの日本語を身に付けてほしいと思っています。

【岩間委員】

市役所では、外国籍の方を雇用していないのでしょうか。

【事務局】

していません。

【岩間委員】

市役所で勤務していれば日常に溶け込むと思います。非常勤でも良いので、雇用を検討してほしいです。

【事務局】

検討します。

【小川会長】

他の自治体は、外国人を雇用しているところがあります。また、外国出身の大学院生が、外国ルーツの子どもたちの進路や就職等の相談役になることで将来の道筋を増やしています。こうしたロールモデルが重要です。このように若い世代を紡ぐことが大切だと感じました。

【事務局】

多文化共生に対して様々な考え方があり、前向きではない方もいるので、そこをクリアしていたかなければならないと思います。

【細谷委員】

素案のP12の5行目について、「アフガニスタン人」と記載していますが、今後状況が変わる可能性があるため、「外国人市民」のほうが良いと思います。また、「アフガニスタン人」と記載することで、ヘイトにつながる恐れがあります。実際は、外国人でも、税金を納めて生活しています。

また、P16について、外国籍市民向けアンケート調査は、「自分の住んでいるところや会社で不快な思いをしたことがあるか」と事実に基づく質問ですが、日本人市民向けアンケート調査においては、「地域に外国人が増えることでどのような影響があるか」と想像上の質問となっています。この2つは同列にしない方が良いでしょう。想像上の質問があたかも事実のように受けられてしまいます。そうして間違えた解釈によりヘイトにつながる恐れがあると思います。

【小川会長】

不安を払拭するようなデータを示すことが必要で、それが市民に安心感を与えます。

【事務局】

P12の5行目については、細谷委員のご指摘通り今後状況が変わる可能性があるため、「外国人市民」に修正します。

P16については、「日本人市民向けアンケート調査においては」からの件を削除することはできると思います。この説明を入れた理由としては、「文化や習慣の違いからトラブルが増える」というマイナスの意見がある一方、「国際理解・異文化体験の機会が増える」というプラスの意見もあり、感情が交錯しているということを伝えたかったため、記載しました。

【細谷委員】

プラン全体が課題等のマイナスのイメージが強いため、プラスの内容を入れた方が良いでしょう。

【事務局】

P16については、日本人がプラスとマイナスそれぞれの感情を持っているということを実情として記載をしました。

【細谷委員】

実情ではありますが、一方は経験したかどうか、もう一方は思うかどうかとなっており、同じ文章の中にあるとあたかも事実かのようにになってしまう恐れがあります。

【栗谷川委員】

外国人市民、日本人市民のどちらにスポットを当ててるのかの違いだと思います。お互いの文化の理解を深めるというような内容だと良いかと思います。

【細谷委員】

交流を増やし、理解を深めるというような内容が良いと思います。

【事務局】

日本人向けアンケートで「近くに住む外国人と交流はありますか」という質問に対して、「やり取りは全くない」と回答した方が59%いました。そうした状況の中で、「地域に外国人が増えることでどのような影響があるか」と聞いていますので、交流のない中でのイメージでの回答となっていると言えます。

【岩間委員】

自治会長を10年していますが、日本人と外国人の大きなトラブルは一度もありません。不安という感情がどこからくるのかわかりません。

【小川会長】

トラブルについて、アンケートで聞いていますか。

【事務局】

日本人向けアンケート調査の「外国人住民とのかかわりで困ったことはありますか」に対して、「地域のルールが守られてない」が22.2%いました。

【岩間委員】

トラブルはごみに関するものがほとんどだと思いますが、外国人市民は説明をすればルールを守ってくれています。

【事務局】

区・自治会長向けアンケート調査では、「外国籍住民のことで困っていること、地域住民からの意見や苦情等がありますか。」という質問に対して、約80%が「ごみの問題」と回答しています。

【細谷委員】

「コミュニケーションを増やすことでお互い理解できる」という表現だとプラスのイメージにつながると思います。

【小川会長】

トラブルというと大きな話に聞こえますが、実際はごみの問題が 80%を占めており、話し合いによって解決できるとなるとイメージが違うと思います。子どもたちが夏祭りに参加している写真や、コラム等を掲載すると良いかと思えます。

【事務局】

市のプランということで課題を多く出してしまっていますが、多文化共生によるメリットやコラム、写真等もなるべく盛り込みたいと思います。

【泉委員】

市内中学校に人権教室を実施した際に、外国人生徒のプリントが白紙のまま提出されたと思いましたが、よく見ると薄く母国語で感想を記載しているのがわかり、学びたい気持ちを強く持っているのが伝わってきました。

【小川会長】

私が住んでいる地域では、土曜日に中学校を開放し、地域のボランティアや学生が学習支援として「寺子屋」を実施しています。予算に限りがあると思いますが、プランを基にいろいろ実施できると良いと思います。

基本方針3が目指すところであり、基本方針1と2はその方法であるため、基本方針3を1にすると印象が良いと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

国からの通知でプラン策定の構成が示されており、他市も同じ形となっています。また、この内容で骨子案を四街道市議会へ説明したため、変更はできないと考えます。

【小川会長】

プランの期間を定めた方が定期的に検証ができると思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

国の動向等に柔軟に対応できるよう、期間を定めないこととしました。

【小川会長】

これで本日の議題はすべて終了といたします。皆様ご協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

5. その他

【事務局】

ありがとうございました。それでは、その他について、事務局よりご連絡がごございます。あらためて、今後のスケジュールについては、令和7年度第3回多文化共生推進プラン策定懇談会を11月に開催し、プランの案をご説明させていただきます予定です。

その後、12月の総務常任委員会で案を説明し、1月にパブリックコメントを実施する予定です。

6. 閉会

【事務局】

それでは、委員の皆様、長い時間ご協力いただきありがとうございました。以上で令和7年度第2回多文化共生推進プラン策定懇談会を終了いたします。本日はお疲れ様でした。